

## 「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 鈴木 祐里奈

## ① 学習成果

海外で長期間生活したのは、今回のサマースクールが初めてであった。中文大のサマープログラムへの参加を通して、留学、そして海外で生活するというのはどのようなものなのかを体感できたように思う。今回の体験を通じてさまざまな気づきがあったが、特に大きいのは、海外留学は非常に大変だが、サポートを求めさえすれば必ず助けてくれる人がいるということである。外国語を使って公式の申請や手続きをするのは初めての経験で、戸惑うことが多かった。渡航前の準備段階から、ビザの申請や先方の大学とのやりとりが非常に複雑で手間取った。また、渡航後も学生証の受け取りや課題提出用のオンラインシステムの登録など複雑な手続きに苦戦することが多かった。しかし、周りの参加者や先方の大学の手を借りて一つずつ対処していくうちに、段々自分自身でトラブルに対処できるようになっていった。外国語を使ってやりとりをするということに関して自信がなかった自分であるが、サポートを受けながら、諦めずやってみればなんとかなるということを実感することができた。

もう一つの気づきは、留学をするにしても大学での学習が基本で、それが非常に重要であるということだ。現地の学生と交流する中で必ず熱心に聞かれるのは、専攻は何かということであった。日本で学生同士交流する場合、専門分野について詳しく聞かれることはあまりないような印象がある。現地の学生は何を勉強しているのかについてたいへん興味を持って聞いてくれる。こうした会話の中で、自分がまだ何を勉強したいのかを明確にできていないことを実感した。何を専攻するかという部分だけでなく、その中でどういった目的を持ってどのようなことに取り組みたいのかという部分をもっと具体的にしなければ勉強しても意味がない。私の所属する文学部では、三年次から専門に分かれる。三年次前期から留学を予定している自分は、専門分野の学習に入る前に留学に行くことになる。また、私は京大の文学部からは学生を派遣した実績がない学部で留学する予定である。専門分野に関する知識があまりない状態で、少し特殊な学部で海外留学に行く上で、留学の効果を最大化させるためには今何をすべきなのかというこれまで考えたことのなかった課題を意識するようになった。このように、自分の専門分野との向き合い方の重要性を再認識した一方で、専門に囚われすぎる必要はないということも強く感じた。これは、今回のサマースクールにさまざまなバックグラウンドを持つ人が集まっていたからである。京大の参加者でも、学部や専攻分野はさまざまで、皆学部や専門の枠に留まることなく様々なことにチャレンジしていた。文系や理系、専門分野といった理由をつけて何かに挑戦することを躊躇うのは勿体無い。残りの大学生活では、関心のあることには臆さず挑戦するという姿勢を大切にしていきたいと感じた。

## ② 海外での経験

香港は交通の利便性が高く、鉄道だけで十分移動できるということもあり、プログラム中はたくさん街中を散策することができた。授業がない週末には、他の参加者と一緒に観光地を巡ったり食事に出かけたりして交流を深めた。また、放課後は一人で出かけるなど、充実した時間を過ごすことができた。海外で一人だけで行動するのは初めての経験だったので、精神的にも少し成長できたように思う。

## ③ プログラムの内容

授業では、中国語普通話の基礎を学んだ。先生は非常に親切で、質問にも丁寧に答えてくれたので安心して参加することができた。授業以外では、香港ツアーやセミナー発表などのさまざまなイベントを通して現地の学生や日本以外からの参加者と交流することができた。現地学生や他国からの参加者の言語レベルが非常に高く、会話

に完全に参加できない自分の言語レベルの低さを実感する一方で、そのことを理由にむやみに自信をなくす必要はなく、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢が何よりも大切だということを体感した。

#### ④ 進路への影響

現時点で交換留学が決まっているが、留学への意欲よりも本当に自分に留学生活が送れるのかという不安が非常に強かった。今回のプログラムへの参加を通じて、求めさえすればサポートを受けられるのだから、なんとかなるかもしれない、それよりも留学先でどんなことを勉強したいのかをもっと明確にしようと前向きに考えられるようになった。もちろん、今回は日本人参加者が非常に多かった上に、香港では英語だけでも生活がしやすかったということもあり、あまりハードな留学ではなかったというのは事実である。ここで油断せずに、次の留学に向けて色々準備しておく必要があるだろう。語学力をまずつけないといけないというのはまず大前提だ。プログラム参加前は、大学で初級中国語は学習済みであるものの、そこからどのように勉強を進めるべきなのかがわからず、特にリスニングとスピーキング力に不安があった。今回現地で授業を受ける中で、とにかく口に出して発音をすることが大切で、その上でネイティブに発音や文法を矯正してもらうことが重要だということを感じることができた。外国語を流暢に話すのは自分には難しいだろうと読み書きに偏重した勉強をしていたが、他の参加者の中国語学習に対する熱意に触発され、実際にコミュニケーションを取る手段としての語学スキルを身につけたいと強く感じるようになった。語学力を高めた上で、次の留学ではそれ以上の専門的な学習に取り組みたい。今回のプログラムを通して、次の留学に対する漠然としたイメージが覆され、留学を現実的なものとして認識できるようになり、今の自分がすべきことは何かという課題が見えてきた。こうしたこととしっかり向き合って、次の留学が充実したものとなるようにしたい。